

漁海況情報第4報 (2010年7月5日発行)

宮城県水産技術総合センター

連絡先：0225-24-0153

※本報は「<http://www.pref.miyagi.jp/mtsc/>」でも公開中です。

1. 海況

本県沖合域に暖水が波及しています。

本県沿岸から沖合の表面水温は、18～22℃台となり、平年よりも約1～5℃高くなりました。特に142°E以東の海域では概ね4～5℃高くなっています。

100m 深水温については、142°E以西では、9～10℃台となり、平年並から平年より1℃低めとなりました。142°E以東では、概ね1～4℃高く、特に38°30'N～39°Nの海域では平年より3～4℃高くなっています。[P1.水温水平分布図] [P1.水温平年偏差図]

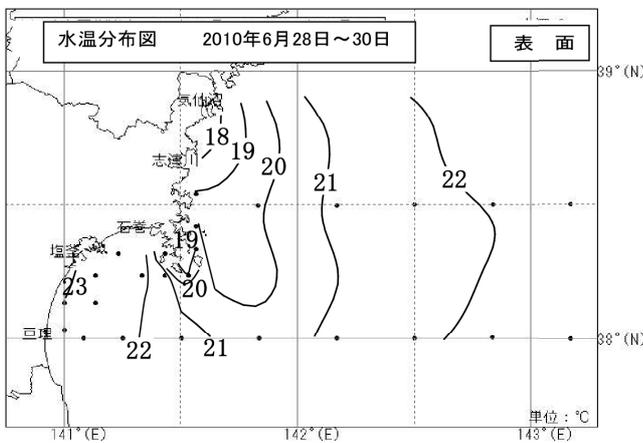
水温鉛直断面図をみると、気仙沼沖合ライン、雄勝沖合ライン、亶理沖合ラインともに、表面付近が昇温し、全般的に表層から水深200m層までの温度差が前月よりも大きくなりました。[P2.水温鉛直断面図]

東北海域の表面水温の分布については、表面水温の平年比は全域で高め主体です。[P2.東北海域の海況図：(社)漁業情報サービスセンター]

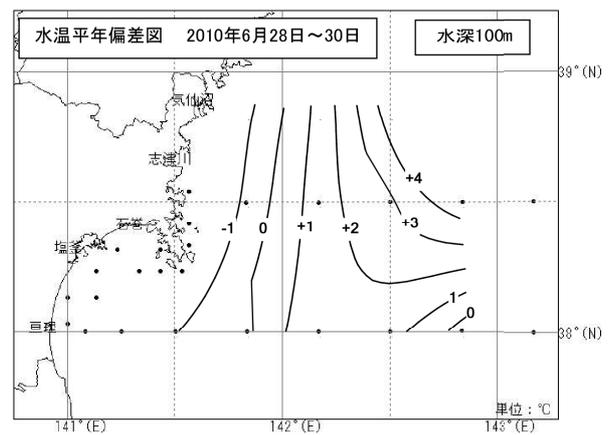
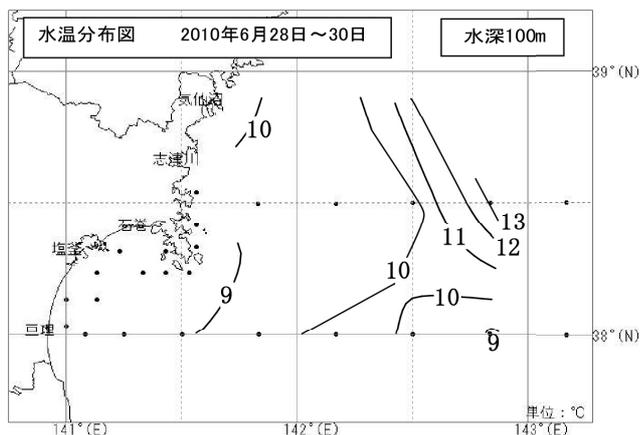
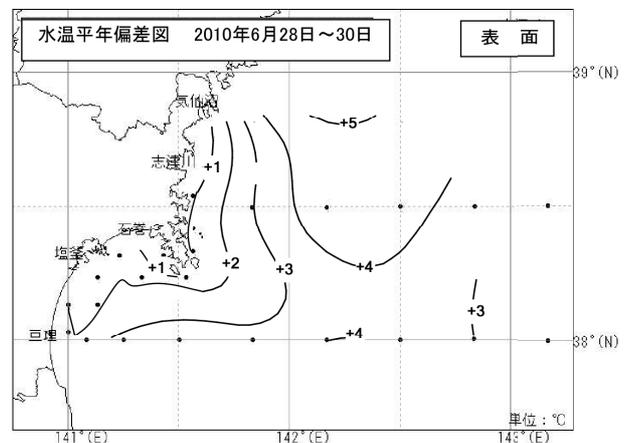
6月下旬の定地水温は、平年と比べて高くなっており、特に江島・歌津では極めて高くなっています。[P2.定地海洋観測結果]

海底直上水温は、仙台湾内では前年よりも約2℃低く、それ以外の海域では前年並です。

・水温水平分布図

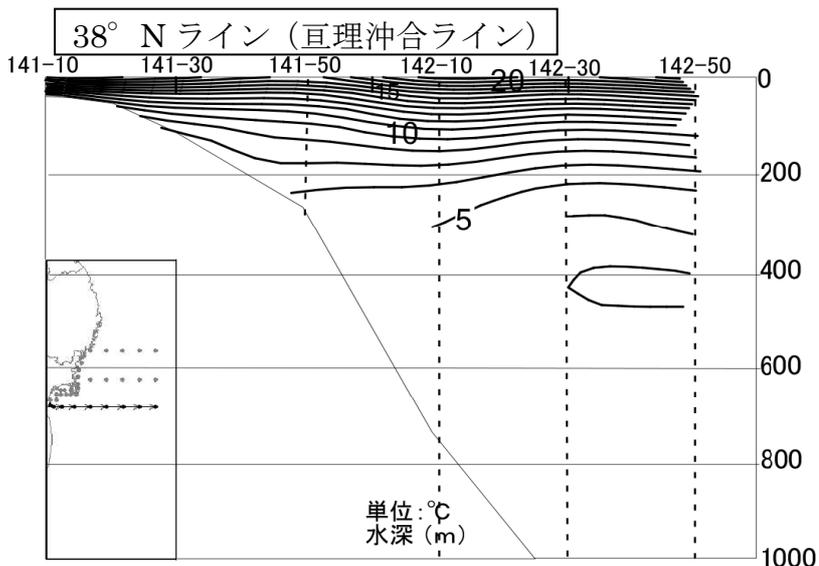
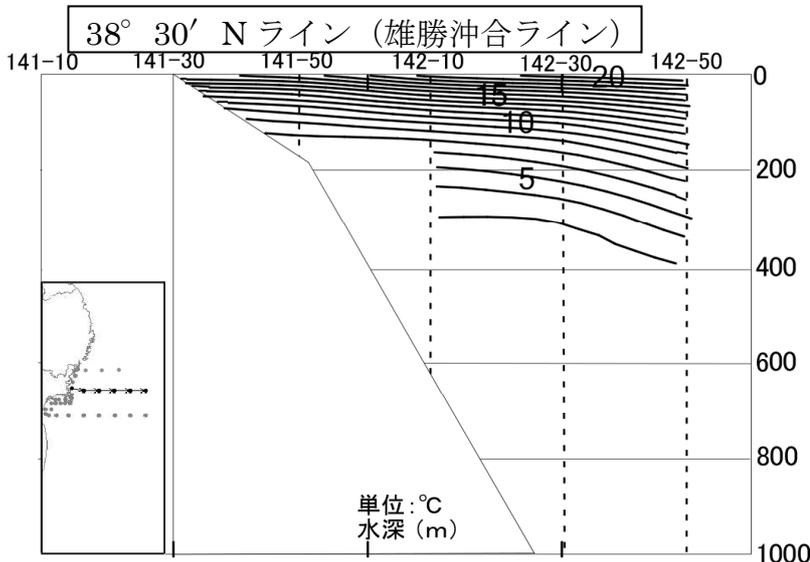
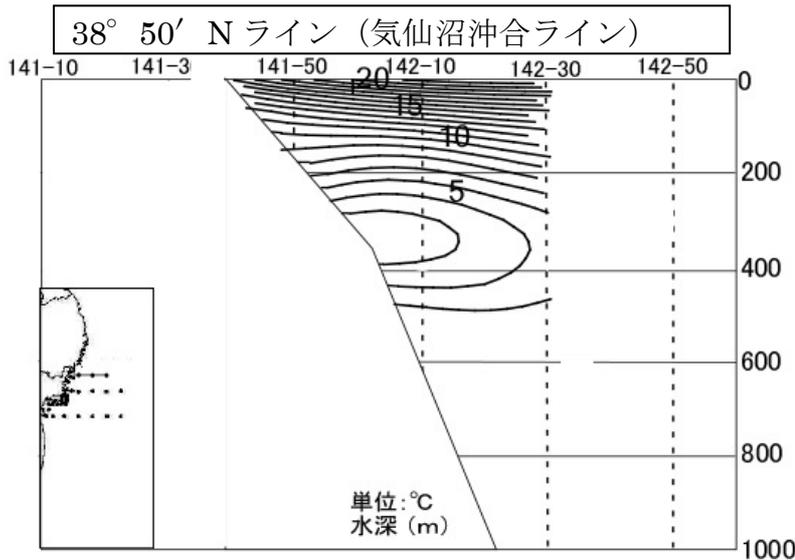


・水温平年偏差図 (現在水温と平年水温との差)

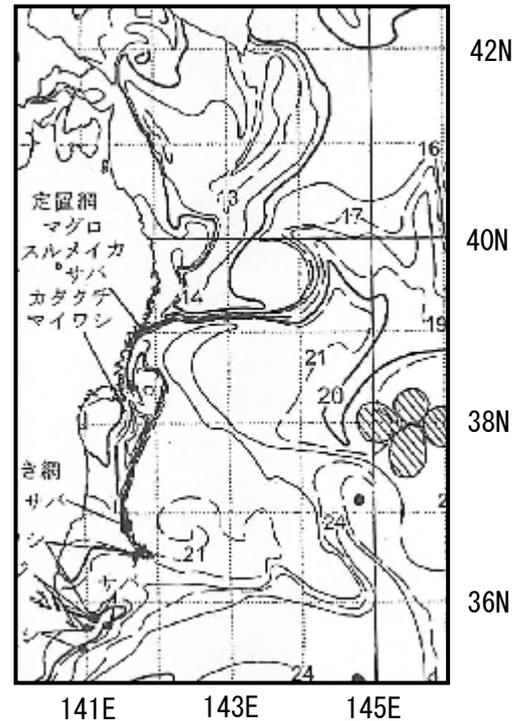


※ 海洋観測は拓洋丸と開洋が実施しました。

・水温鉛直断面図



・2010年7月1日の東北海道の海況(表面水温)
(社) 漁業情報サービスセンター



特記事項 (社) 漁業情報サービスセンター

- ・鹿島灘～金華山沿岸は16～21°C台。
- ・金華山以北の沿岸は14～21°C台。
- ・津軽暖流は15～16°Cが沿岸を南下。
- ・近海では、15°Cの南端は39° 10' N・142° 25' E、20°Cの北端は39° 45' N・144° 25' E。
- ・25°Cの北端は、35° 10' N・142° 10' E。
- ・東北近海の表面水温の平年比(30日)は全域で高め主体。前年比は中南部海域で高め主体。
- ・37°～38° 40' N・146° 30'～148° E (21°C台)と35° 20'～37° 20' N・152°～154° E (22～23°C台)に右回りの渦が分布。この渦の周辺域はカツオ・マグロのまき網の漁場となっている。
- ・北上暖水の縁辺は各所で潮境が発達。

・定地海洋観測結果 (°C)

	6月下旬 (平年比)		平年差	前年差
歌津	16.7	(極めて高い)	+1.4	+1.5
江島	18.2	(極めて高い)	+3.1	+2.5
田代島	20.2	(高い)	+2.4	+1.6

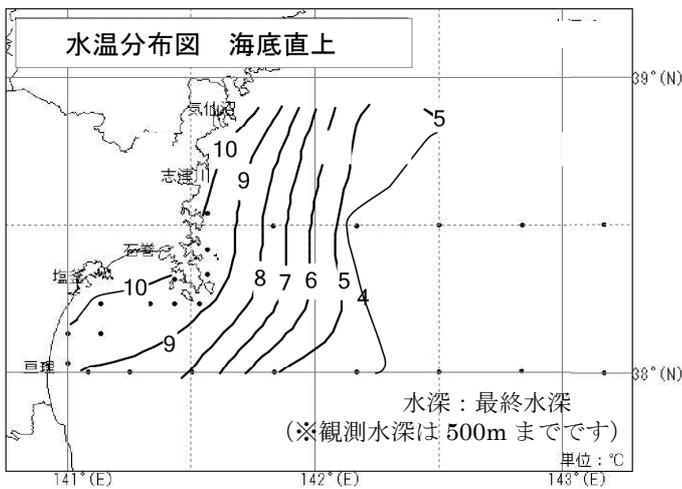
※平年差は、江島、田代島：過去30年間、歌津：過去10年間との比較。

※毎日の定地水温情報は当センターホームページでも見られます。

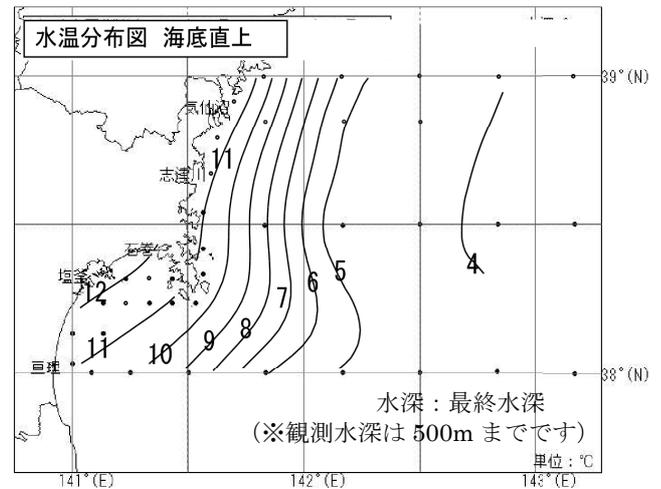
(<http://www.pref.miyagi.jp/mtsc/>)

・底層水温図

・海底直上水温(2010年6月28日～30日)

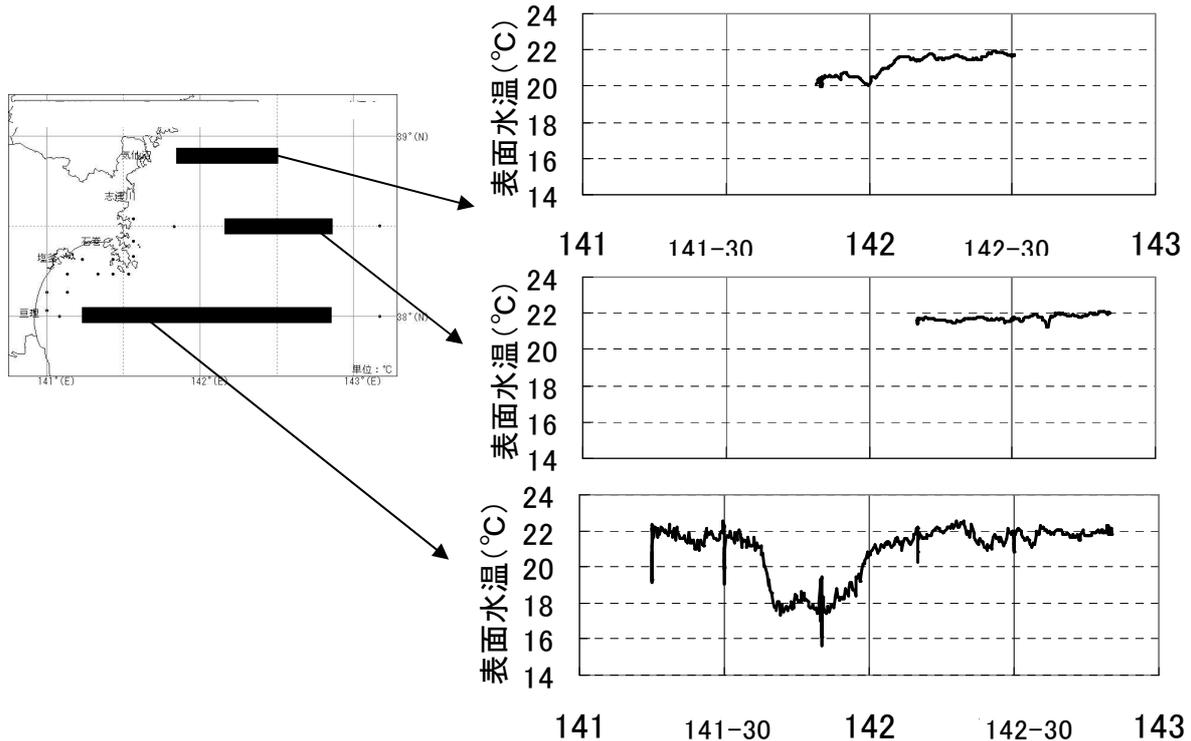


・昨年同期の海底直上水温(2009年7月1日～3日)



2. 表層水温情報

拓洋丸に搭載している「表層モニタリングシステム」で取得した航走表面水温は、下記のとおりです。



3. 調査船調査情報

イカ類漁場調査結果

6月15～16日、6月17～18日に県漁業調査指導船「拓洋丸」でイカ類漁場調査（イカ釣り）を行いました。この調査はスルメイカ北上期におけるイカ類の分布状況等を把握するため、北海道、青森県、岩手県の各水産研究機関、北海道区及び東北区水産研究所と共同で実施しているものです。

調査結果の概要は表1、図1のとおりです。St.3でのみスルメイカが釣獲されました。調査点毎のスルメイカのCPUE（釣機1台1時間あたりの釣獲尾数）は0～0.5尾、平均0.08尾で前年（0～1.7尾、平均0.39尾）に比べ低くなりました。また、釣獲されたスルメイカの外套長の範囲は20～22cmで前年（15～18cm）より大型でした。

表1 イカ類漁場調査結果

調査地点	調査月日	開始時刻	操業時間	釣機(台)	スルメイカ釣獲尾数	水深(m)	水温(°C)			外套長組成(cm)									
							表面	50m	100m	18	19	20	21	22	23	24	25		
St.1	6月15日	19:00	2時間	3	0	358	15.8	10.44	8.96										
St.2	6月15日	22:15	2時間	3	0	603	19.4	12.36	9.16										
St.3	6月16日	1:30	2時間	3	3	841	18.9	10.20	7.90			1	1	1					
St.4	6月17日	19:00	2時間	3	0	363	19.7	11.69	7.39										
St.5	6月17日	22:05	2時間	3	0	733	20.0	9.17	5.97										
St.6	6月18日	1:15	2時間	3	0	958	19.8	10.60	7.70										

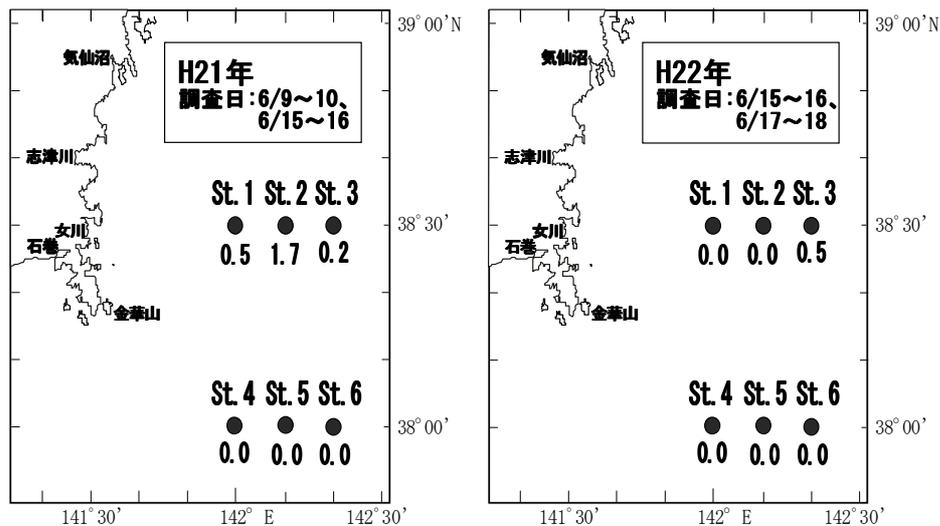
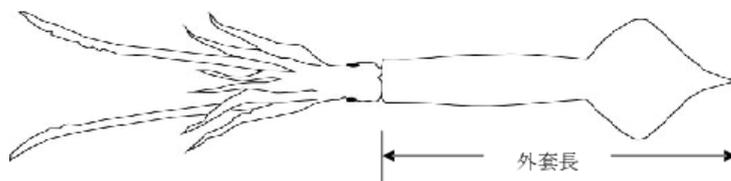


図1 釣機1台1時間あたりの釣獲尾数（尾／時間・台）



(参考) スルメイカの体長測定部位

4. 漁況

魚種	沖底	小底	旋網	旋網(海外)	定置網	刺網全漁法	沿岸イカ釣り	延縄	大目流し網	一本釣り	その他	総計	前年比(%)
スルメイカ	3,980	275			212		10				14	4,491	128
マイワシ			432		7						6	445	291
カタクテイワシ					3,691						168	3,859	447
カツオ			5,266	1,734		0			3	926	22	7,951	104
サバ類	1	0	0		56	0			0		6	63	3
クロマグロ			23		45			1	9		11	89	44
サワラ		0			98	0		1			1	99	4,949
マダラ	244	80			20		3	0			818	1,165	140
スケトウダラ	135	7				0					85	227	56

5. 調査船運航計画

拓 洋 丸	
7 月 5 日	計量魚探キャリブレーション
7 月 6 日 ~ 7 日	イカ漁場調査
7 月 12 日	トロール網試験
7 月 26 日 ~ 27 日	沿岸定線調査

開 洋	
7 月 5 日	マアナゴレプト調査
7 月 8 日	仙台湾海底耕耘事前調査
7 月 15 日	仙台湾定期水質調査
7 月 22 日	仙台湾海底耕耘効果調査
7 月 26 日 ~ 27 日	浅海定線調査

平成 22 年度カツオ長期来遊資源動向予測（6 月～11 月）

平成 22 年 6 月 18 日付けで、「平成 22 年度カツオ長期来遊資源動向予測（6 月～11 月）」が出されました。予測内容の内、来遊資源量について、以下に示します。なお、詳細は水産庁のホームページをご覧ください。<http://www.jfa.maff.go.jp/j/press/sigen/100618.html>

来遊資源量

近海竿釣りの旬別 CPUE（1 日 1 隻あたりカツオの漁獲量）は 3 月上旬に一時期平年（1972 年から 2009 年平均）を上回ったものの、全体的には平年を下回って推移した。また、昨年との比較では、3 月中旬から 4 月中旬にかけては、昨年の CPUE を下回ったものの、5 月上旬以降は昨年の CPUE を上回った。一方、5 月の伊豆諸島から房総近海における曳縄の漁獲量は平年を下回った。

これまでの調査結果から 5 月上旬から 6 月上旬の竿釣り CPUE と 6 月以降の常磐・三陸沖の CPUE に有意な相関関係が見られることから、この関係を用いて本年の常磐・三陸沖の 6 月以降の来遊資源動向について予測を行ったところ、昨年をやや上回るものの、過去 10 年の平均値を下回ると予測された(図)。

なお、中西部太平洋のカツオ資源量は高位、増加傾向と評価されているが、我が国への来遊資源量との関係については不明。

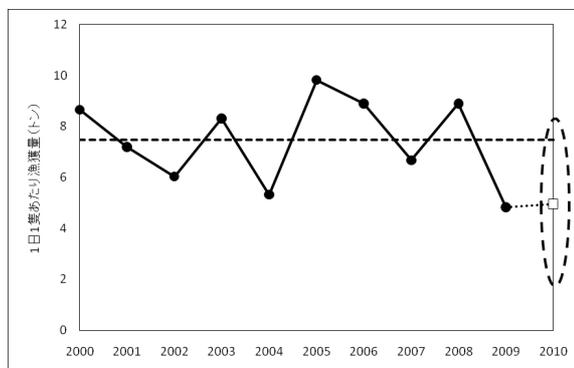


図 過去 10 年間の 6～11 月の近海竿釣り船による CPUE（1 日 1 隻あたりの漁獲量）および予測された 2010 年の CPUE 水準。図中の白抜き四角点は予測値を、点線の楕円は予測区間を表し、点線の直線は過去 10 年間の平均値（2000 年～2009 年）を表す。